

2023年度 第1回 入学試験問題

国 語 (50分)

解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

一 次の文章——線のカタカナ部分を漢字に直しなさい。

1 たきぎをタバねる。 2 チームのシチュウとなる選手。 3 タイソクを伸ばす。

4 ヒキこもごもの会見。 5 キヌで織られた着物。 6 若くしてハクシキな人。

7 シンソウを究明する。 8 イシヨクの組み合わせ。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点や記号も一字と数えます。)

生物の絶滅ぜつめつにはいろいろなパターンがありますが、最近さいじんは人間が大きく関与かんよしている絶滅がとても多いのです。その最も極端きょくたんな例としては、リヨコウバトの絶滅が挙げられるでしょう。

リヨコウバトは、北米大陸の東岸に棲息せいそくしていた、渡りわたをするハトで、その個体数は鳥類史上最多といわれるほどたくさんいたのですが、Xのはじめに絶滅しました。標本がスミソニアン博物館に残っていて、それにはジョージ・ワシントン夫人にちなんでマーサという名前が付けられています。マーサは、アメリカのシンシナティ動物園で飼育されていたメスのリヨコウバトの最後の個体でしたが、一九一四年に死に、それによってリヨコウバトは絶滅しました。

リヨコウバトはYには北米に約五〇億羽もいたと言われています。世界の鳥の中で最大の繁栄はんえいを誇ほこっていた鳥だったのです。人間がいま全世界で七八億人ですから、北米大陸の東側だけで五〇億羽というのは大変な数です。

リヨコウバトはとても速く飛びます。時速九六キロで飛んでいたといわれています。大きな群れで営巣えいそうして繁殖はんしよくする性質がありました。大きな営巣地を五大湖周辺で形成し、そこで卵をかえます。冬になると、南のほうのメキシコ湾岸わんがんやフロリダへ飛んで行き、またその次の繁殖期になると北へ戻ってきて営巣する、という渡りをしていたのです。

リヨコウバトの営巢地は大きなものでは八五〇平方マイル（二二〇〇平方キロメートル）ほどだったようですが、そこに一・三六億羽が棲息していたという記録があります。相当な密度で暮らしていたことになりましたが、そういう生活で互いにコミュニケーションを密にすることによって群れで繁栄していたようです。

リヨコウバトの産子数はそれほど多くはないのです。鳥によっては一度に何個も卵を産みますが、リヨコウバトはほとんど一個か、せいぜい二個しか卵を産まなかった。にもかかわらず個体数が多かったのは、天敵がほとんどいなかったからでしょう。そして、何度も繁殖をしますから、a ひとつのつがいが一年に一羽しか育てないとしても、その回数が重なっていくので、ある程度の個体数が死んでも、全体数は増えることになりました。

ただ、リヨコウバトの習性はわりとかつちりと決まっています、フレキシビリティがあまりなかった。リヨコウバトは必ず自分の生まれた巣に戻ってきます。大きな巣には億を超えるリヨコウバトが暮らしていることになるわけですが、そこで人間が何をしたかという点、かすみ網を張り、巣に帰ってくるリヨコウバトをまさに「A」に捕まえたのです。そして、営巢地のそばに缶詰や羽毛布団の工場を建て、捕まえたリヨコウバトを食用に加工したり、羽毛製品を作ったりするというのを、いわばベルトコンベヤー式にやりました。リヨコウバトは何十億羽もいるわけだから、たくさん捕ってもそんなに減らないだろうと思っていたのかもしれません。実際、最初のうちは捕っても捕ってもリヨコウバトの数はあまり減らなかつたのです。

それが、あるときから急にいなくなります。一八五〇年頃から減少傾向が激しくなり、Z の終わりにはほとんどいなくなつてしまいました。五〇億羽いたリヨコウバトが、b 一〇〇年の間に激減し、一九〇八年には全米で七羽しかいなくなつてしまいました。

そして、先述のように動物園で飼育されていたマーサが一九一四年に死んで、リヨコウバトは絶滅しました。

そんなわけで、リヨコウバトは人類による殺戮で滅ぼされた最大の例といえるでしょう。減少していく過程で保護が試みられて繁殖する性質があったと先述しましたが、逆に言うと、小さな集団ではなかなか繁殖できなかつたのです。リヨコウバトが特殊な環境にだけ適応しているような習性の鳥ではなく、もう少しフレキシビリティを持っていれば、絶滅することなく生き延びることができたのかもしれない。

個体数が多くても、ひとつの環境に密集している生物は、あるひとつの大きな要因によってあつという間に絶滅する確率が高い。c、まばらに分布している生物のほうが絶滅しないこともあるのです。

（池田清彦『もうすぐいなくなります 絶滅の生物学』新潮社より）

問一 — 線①「渡りをするハト」とありますが、「リヨコウバト」が寒い季節に「渡りをする」のはどこからどこですか。
次の文の空らんⅠ・Ⅱに当てはまる言葉を、Ⅰは五字以内、Ⅱは十五字以内で文章中から探し、抜き出して答えなさい。

() Ⅰ () から () Ⅱ () 。

問二 — 線②「鳥類史上最多」について

(1) 「リヨコウバト」は北米に最も多いときにはどのくらいいたのですか。文章中から探し、抜き出して答えなさい。

(2) 「鳥類史上最多」となるほど数が多くなった理由として当てはまるものを次のア～クの中から三つ選び、記号で答えなさい。

ア、年に何度も卵を産むから。

イ、速く飛ぶことができるから。

ウ、人間に保護されていたから。

エ、一生の内に何羽も子を育てるから。

オ、小さな集団で生活してきたから。

カ、命をおびやかす敵がいなかったから。

キ、コミュニケーションを密にするから。

ク、繁殖しやすい気候だったから。

問三 空らん 、、に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答

えなさい。

ア、X	一九世紀	Y	一八世紀	Z	一九世紀	イ、X	二〇世紀	Y	一九世紀	Z	一八世紀
ウ、X	二〇世紀	Y	一八世紀	Z	一九世紀	エ、X	一九世紀	Y	二〇世紀	Z	一八世紀

問四 空らん a、b、c に入る最もふさわしい言葉を次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号をくり返すことはできません。

ア、むしろ イ、たとえ ウ、まるで エ、きつと オ、たった

問五 — 線③ 「フレキシビリティ」の意味をこの前後の文章から推測し、最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、協調性 イ、類似性 ウ、独自性 エ、柔軟性 オ、方向性

問六 空らん【A】に入る最もふさわしい言葉を次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、一石二鳥 イ、一網打尽 ウ、一生懸命 エ、一喜一憂 オ、一朝一夕

問七 — 線④ 「リョコウバトは人類による殺戮で滅ぼされた最大の例」について

(1) 「人類による殺戮」とありますが、人間は何のために「リョコウバト」を捕まえたのですか。それが具体的に書かれている一文を探し、その始めの五字を抜き出して答えなさい。

(2) 「人類による殺戮」の対象となったのは、「リョコウバト」にどのような習性があったからですか。文章中の表現を用いて説明しなさい。

問八 この文章の内容と合うものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、生物が棲息する場所によって絶滅しやすいかどうか違いがわかる。
- イ、生物の歴史を調べると個体数の増減が必ず起きることに気づく。
- ウ、生物が絶滅した原因のほとんどに人類による殺戮が関係している。
- エ、生物を保護するにはその繁殖の手助けをする必要がある。
- オ、生物の生存には複数の環境に対応できることが大切な場合がある。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点や記号も一字と数えます。)

夏も深まり、青空をゆく雲の輪郭がはつきりしてきた、ある日。

ソラはひとりで、保健室にいた。クローバーの机に座って、小説を読んでいた。

正確には、もうひとり、この部屋にはいた。ハセオが、カーテンを引いたベッドの上で、寝息も立てずに眠っていた。前夜に、

三部作のSF映画を一気に観て夜更かししたとかで、保健室に寝に来ていたのだ。
北村先生も不在で、あたりは静かだった。遠くからはプールに興じる生徒たちの声が聞こえる。少し寂しさのまじった空気感が、ソラは決して嫌ではなかった。

と、ドアのすりガラスに人影が映り、ノックする音がした。

「高橋です」

ソラは、その声に、反射的に身をすくめた。

「X、いますか？」そう言いながら、入ってきたのは、元担任の高橋先生だった。

すらりと背の高い、眼鏡のよく似合う理科教師。流行のゲームにも詳しくて、生徒たちに人気のある先生だった。

でも、ソラはなじめなかった。「保健室登校」がはじまった去年には、家庭訪問や、三者面談が繰り返されたが、高橋先生は、ソラと臣野シゲルとを「仲直り」させることを第一に考えていた。とにかく臣野シゲルを遠ざけてほしかったソラとは、決定的に考えが違ったのだ。

二年になって、担任が替わってからは、会ったことはなかった。いまは、別のクラスを持っていてるわけで、わざわざ元受け持ちのソラのところに来なくてもいいのに。

ソラは、見下ろしてくる高橋先生の視線を避けて、保健室の棚たなに置かれた、リング形のガラス製の時計を見つめていた。「おまえ、ひとりなの？」

ためらいながら、ソラはうなずく。

「イエスカノー」で答える問い方をするのは、相変わらずだった。こういう問い方をする、相手も答えやすいと、高橋先生は思っている。たぶん、話ベタな生徒に対しての、教師としてのテクニックなのだろう。でも、そのぶん、「イエスカノー」で話しにくいことが、こぼれおちてしまう。

「北村先生は留守かな……」高橋先生はぐるりと部屋を見回す。ハセオは、起きているときとはうらはらに、眠っているときにはびっくりするくらい静かなので、気づいていないようだ。

「川井、やっぱり、教室には行けてないのか？」

うなずく。

「もう、^②臣野とは違うクラスなんだよな。それでも、^③だめか？」

うなずく。

「保健室にいたほうが、楽か？」

うなずく。

「うーん。それじゃあ、しようがないな」

高橋先生は、大きく息を吐いた。細かいところを聞かないで、^③イエスカノーが聞くだけでは、「相談」にはならないと思うが、たぶん、そういうところに費やす時間や労力が、高橋先生には、「むだ」や「もたつき」に思えるのだろう。

「もうすぐ夏休みだろ。俺おれの知り合いがやってるヨットスクールに、川井、来てみないか？ 二週間、海べで暮らすと、気分もずいぶん変わると思うんだ。^④どうだ？」

ソラは、うつむいたまま、かぶりをふった。

「だめかあ……うんうん……」

高橋先生は、自分で自分を納得させるかのように、機械的なうなずきを繰り返す。

ソラのことを気にかけてくれているのはありがたいけれど、正直なところ、放っておいてほしかった。「だめなんだよな、やっぱり」

高橋先生は、説得ということをしなない人だった。ソラが否定の意志を示した以上、それでこの話は終わってしまうのだ。もう出ていこうとしている、というのがソラには気配でわかった。

「ん、これは、歳時記か？」

高橋先生が、クローバーの机から取り上げたのは、さつきハセオが置いた歳時記だった。

「ふーん、川井は、俳句に関心があるのかあ」

ぱらぱらとページをめくる音が、ソラの頭の上で聞こえた。⑤ 視線は、リング形の時計に向けたままだ。

A 「みたいに。」

「俺もな、理系なんだけど、新聞の投稿欄とうこうらんを読んで、俳句っておもしろいなと思ってな。数字ばかり相手にしているから、言葉を知らないんだよ。でもな、ほら……」

高橋先生はページを繰る指をぴたつと止めて、

「白雨はくうなんて、きれいな言葉だよなあ。夕立のことを、そういうんだな。最近じゃ“ゲリラ豪雨ごうう”なんていうが、それじゃ味気ないもんな。こういう、趣おもむきのある言葉、大事にしていきたいよな」

高橋先生は、しばらく歳時記をめくっていたが、ソラがうつむいたままで、反応がないのがおもしろくなかったらしい。

「じゃあ、ヨットスクール、行きたくなったら連絡れんらくしてくれよ。いつでも、待ってるから」

⑥ 高橋先生が出ていったドアの音が、しずかな部屋の中に、響ひびく。

そのとたん、プールからはしゃぎ声こゑが戻もどってきた。いままで、たまたまやんでいたのか。それとも、聞こえなかったのか。その遠い声の裏側から、ふいに近いところで声こゑがした。

「ソラ、ソラ」

カーテンの内からの声。

ソラは、B かのようように、びくつと肩かたを震ふるわせた。

「ハセオ」

ハセオは、はずみをつけて、ベッドから飛び降りる。日ざしのさしこむ窓に向かって、大きく伸びをする。長身の彼かれがその姿勢を取ると、まるで太陽を射ようとする弓のように見えた。

「え、いつから起きてたの？」

おそるおそるソラが尋たずねると、

「ノックで起きた」

b
こともなげにハセオは答える。それから、ずいっとソラのほうに顔を向けて、
「あいつの言うこと、おかしいよな」

⑦
「オモムキノアルコトババダイジニシタイって、ああいうこと言う大人ってよくいるんだけど」
机の歳時記を手にとって、高橋先生と同じように、ばらばらとめくりながら、

「おれはな、こう思うのよ。白雨って、たしかにきれいな言葉だけどさ、それ自体がきれいなわけじゃない。むかしから、それを
さ、きれいな歌や、詩や、句に詠んできたから、きれいに聞こえるようになったわけだろ？」

ハセオは、こんなふうに、言葉や、俳句について話すときだけは、真剣そのものだ。そういうときには、ひとさし指で、あごを
せわしく擦る。本気で考え、しゃべっているときの、クセだ。

するとふいに、ハセオのくちびるがゆっくりとひらいて、びっくりするほど澄んだ、歌のような調べが、そこから流れてきた。

⑧
木から木へこどもの走る白雨かな

ソラは、きれいな鳥が一瞬目の前を過ぎていったような感覚に、しばし、浸っていた。
俳句を朗唱しているのだ、と気づくのに、数秒、かかったほどだった。

ハセオは、ひと呼吸おいてソラのほうを見て、にやっと笑う。そして、いつもの口調でとうとうとしやべりだした。

「こういう句な、いいと思わん？　ひと目見たときから、頭の中にピシッと刻まれた句なんだけどさ。外で遊んでたらさ、夕立が
降ってきて、いそいでうちに帰る途中で、できるだけ濡れないように、木の下を通っていくじゃん。その感じな。葉っぱのすきま
から、雨と日差しがいっしょに降ってくるキラキラ感って、おれ大好きなんだけど、おれのかわりに、おれの何倍もうまくそれを
言ってくれてる。だからさ、すごいのは、白雨って言葉を、きれいに使ってきた人たちだと思っただよ。
白雨って言葉を使って、安っぽいことやつまらないことを言ったら、やっぱり白雨って言葉が輝かないじゃん？　そんで、輝かせ
てきた人に、悪いじゃん？　というより、悔しいじゃんか、昔の人にできて、おれらにできないなんてさ。だから、おれ、俳句を
作ってるんだ」

ハセオは、歳時記を、ぼんと、机の上に投げだす。

その瞬間――

「あ、こんなのどう？」

ポケットをごそごそして、取り出したのは、紙くず——いや、短冊たんざくだった。ハセオはその短冊を机の上にひろげると、まるで

C かのようなすばやさで、ボールペンでささつと言葉を書き留めた。

白雨か駆け抜ける Y が待っている

「どうよ？」と言って突き出された短冊の言葉を読んで、ソラのくちびるに、ふっと笑みえが浮かんだ。自分でも、気づかないうちに。

ああ、こんなことってあるなあ——そう思ったのだ。夕立に降られて、濡れて帰ってくる。そうすると、家であたたかい紅茶を出してくれる。紅茶には、ケーキもついてくる。そんなことが、いつだったか、あったような気がする。

夕立に濡れた肩の気持ち悪さ、革靴かわかたの匂いにお、湿った靴下くつしたで廊下ろうかをべたべた歩く感覚、口にふくんだ紅茶の苦さ、クリームの舌触したざわり……一気によみがえってくる。ソラには、このケーキは白いクリームを使ったショートケーキに違いがないという確信があった。たぶん、雨しぶきの白さを表しているであろう「白雨」の「白」、この字が、白いケーキだということを想像させる。だから、「夕立」ではなくて「白雨」である必然性があるのだ。

でも、ソラにはそれを全部言葉にすることは、できなかった。というより、ためらわれた。ハセオの句の世界が、むしろ壊こわれてしまうような気がしたのだ。それで、

「わかるよ」
とだけ、答える。

ハセオは、うれしそうに、歯を見せて笑った。「んじや、これ、とっておこ」と言って、短冊を胸ポケットにしまう。

「ようするにさ、言葉は使い方次第しだいだってことだよな。逆も言えると思うんだよ、バカとかアホとかだつてさ、きつたない言葉だけさ、おれがたとえば、ソラにさ、謎句なぞがとけなかったときは『バツカデー』とか言うじゃん。ああいうときの『バカ』は、本当にバカにしているバカじゃないって思うんだよな。あ、なんかバカつて言いすぎてよくわからなくなってきたけど」

ソラは、どきつとする。

いやなあだ名をつけられてしまった。汚きたない言葉。

ハセオの考えに沿うのなら、そんな言葉でも、輝くことがある、ということだ。

いや、ハセオは、自分の俳句で、輝かせてみせる、と言っているのだ。

本当だろうか？ そんなことができるのだろうか。

臣野シゲルたちが口にするときの、その言葉は、悪意にまみれている。たぶん、彼らは、人を傷つける刃物はものとしてしか、その言葉を使えない。では、ソラ自身なら？ 到底無理だ、と思う。でも、ハセオなら、できそうな気がした。

「だからさ、あいつは、まちがってるよ」
そう言っつて、ハセオは笑う。

結局その日、ハセオは、ソラに何があったのかとか、高橋先生とどういう関係なのかについては、ひとことも聞くことはなかった。本当に関心がなかったのか、気を遣つかってくれたのかは、わからない。でも、そのことが、ソラにはむしろありがたかった。その日から、ソラは、マスクをしないで保健室に入るようになった。

(高柳克弘『そのことばが降ってくる 保健室の俳句会』ポプラ社より)

問一 ~~~~~線 a 「興じる」、~~~~~線 b 「こともなげに」の意味として最もふさわしいものをそれぞれ次のア〜エの中から選び、記号で答えなさい。

a 「興じる」

ア、集まる イ、飛びこむ ウ、楽しむ エ、興奮する

b 「こともなげに」

ア、少し不満に思っているさま イ、ぼんやりとしているさま
ウ、興味を感じているさま エ、たいしたことだと思っていないさま

問二 — 線①「身をすくめた」とありますが、それはなぜですか。理由として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、元担任の高橋先生とは考えが合わず、できれば会いたくないと思っていたから。
イ、だれに対しても警戒心を強く抱いている状況であったところに人の声がしたから。
ウ、保健室で寝ている生徒がいるのに大きな声で入ってくる無神経な人物だと感じたから。
エ、ルールを破って保健室に逃げ込んでいたことがばれてしまわないかと緊張したから。
オ、元担任の高橋先生は厳しく、かつてしかられた経験がとっさによりみがえったから。

問三 空らん X に入る主人公の氏名を答えなさい。

問四 — 線②「臣野とは違うクラスなんだよな。それでも、だめか？」とありますが、「臣野」と主人公との間にはどのような問題が起きていましたか。次の文の空らんには当てはまる十五字以上二十字以内の言葉を、これより後の文章の中から探し、抜き出して答えなさい。

臣野シゲルたちに () こと。

問五 — 線③「イエスカノーか聞くだけでは、『相談』にはならないと思う」とありますが、主人公がそう思うのはなぜですか。次の文の空らんに当てはまる二十五字以上三十字以内の言葉を、文章中から探し、始めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

() から。

問六 — 線④ 「かぶりをふった」について

(1) 「かぶり」の意味として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、頭 イ、肩 ウ、腕うで エ、腰こし オ、足

(2) 「かぶりをふった」と対照的な行動を示す四字の言葉を文章中から探し、抜き出して答えなさい。

問七 — 線⑤ 「視線は、リング形の時計に向けたままだ」とありますが、これは、だれの、何を目的とした行動ですか。次の文の空らんにはまる言葉を、文章中の表現を用いて答えなさい。

() ための行動。

問八 空らん 、、に入る最もふさわしい言葉を次のア～カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号をくり返すことはできません。

ア、お化けにささやかれた イ、じゃんけんで負けた ウ、牛が歩く
エ、金魚すくいをする オ、熱いお茶を飲んだ カ、タコ糸で縛しばりつけてしまった

問九 — 線⑥ 「そのとたん、プールからはしやぎ声が戻ってきた」のはなぜですか。理由として最もふさわしいものを次のア、イの中から選び、記号で答えなさい。

ア、それまでは、高橋先生の声が大きすぎて聞こえなかったから。

イ、それまでは、主人公が高橋先生とのやりとりに気をとられていたから。

ウ、それまでは、プールの授業に参加している生徒が少なかったから。

エ、それまでは、主人公が腹立たしい気持ちでいっぱいだったから。

問十 — 線⑦ 「オモムキノアルコトバヲダイジニシタイって、ああいうこと言う大人ってよくいるんだけど」について

(1) 「オモムキノアルコトバヲダイジニシタイ」とは異なる「ハセオ」の考え方をこれより後の文章中から八字で探し、抜き出して答えなさい。

(2) 「オモムキノアルコトバヲダイジニシタイ」とありますが、カタカナで表記することでどんなことが表現されていますか。最もふさわしいものを次のア、イの中から選び、記号で答えなさい。

ア、高橋先生の言っていることが難しく理解できないということ。

イ、同じ言葉を使っているが高橋先生は他の大人とはちがうということ。

ウ、主人公の気持ちをきづかって、慰めようとしていること。

エ、高橋先生が言っている言葉は表面的で同意できないということ。

問十一 — 線⑧ 「木から木へこどもの走る白雨かな」という俳句において、「夕立」ではなく「白雨」という言葉を用いることによって、どのような情景が表現されていると「ハセオ」は考えていますか。そのことを具体的に述べている一文を文章の中から探し、始めの五字を抜き出して答えなさい。

問十二 空らん Y に入る言葉を、この俳句に対する主人公の感想をふまえて文章中から五字以内で探し、抜き出して答えなさい。

問十三 ———線⑨「ハセオなら、できそうな気がした」とありますが、どんなことができそうだと思ったのですか。「俳句」という言葉を用い、「くをくこと」という形にまとめて答えなさい。

国語（一）

受験番号			

氏名

一枚目	
二枚目	
合計	

一

5	キヌ	1	タバ ねる
6	ハクシキ	2	シチュウ
7	シンソウ	3	タイソク
8	イシヨク	4	ヒキ

二

問一

I

II

問二

(1)

(2)

問三

--

問四

a
b
c

問五

--

問六

--

問七

(1)

(2)

--

問八

--

国語 (二)

受験番号			

氏 名

氏 名	



問一

a
b

問二

--

問三

--

問四

問五

}

問六

(1)

--

(2)

問七

--

問八

A
B
C

問九

--

問十

(1)

(2)

--

問十一

問十二

問十三

--